

## 「キリスト教研究所 協力研究員として」

瀬川 和雄

昨年秋、中山弘正教授よりお電話を頂き、明年4月より現在先生が所長をなさって居られるキリスト教研究所の協力研究員になるようにとのお薦めを頂いた。私がかつて法人の常任理事在任中に関心を持ち、折に触れて資料を集めておいた「明治学院卒業生献身者調査」を纏めてみるようにとのことであった。しかも、研究・教育にご多忙な中山先生ご自身が責任者となってご指導くださることを知り恐縮している。

私自身教会の一牧者として生涯を送った者であり、研究生活の経験を持たない者なので、かつて収集した資料を今回整理することが出来る喜びを持つと同時に、研究員として責任を果たすことが出来るのかという危惧を持たざるを得なかった。しかし、中山教授を始めとして諸先生とのお交わりの中に研究方法についてご教示頂きつつ努力したいと願う次第である。

研究所としては今回のテーマは主として戦後の卒業生を中心として考えておられるかと推察している。常任理事在任中に、戦後の大学・高校及び中学校の卒業生の中から多くの献身者が出ていることに気付いた。その後、最近の卒業生がどのような傾向か今後の調査で判明することであるが、やはり継続していることを願ってやまない。

しかし、私はこの時期の卒業生の中から献身者が誕生していることについて検討するためには、明治学院の創立の時期に溯り、①東京一致神学校より明治学院神学部廃止までの時代(1877-1930)、②1930年に神学部と東京神学社神学校との合同により、明治学院が組織上では神学部を持たなくなったが、所謂、十五年戦争の時代であったにも関わらず基督教主義学校としてその存続を守り通した時代

(1930-1945)を抜きにしては今回のテーマは考えられないのである。

明治学院五十年史は山本秀焯著『日本基督教会略史』に記述されている「此の合同の一結果として協力ミッションは東京に一致神学校なるものを設立して教職者の養成をなすに至れり」の一文を引用している。(この合同とは、1877年の日本基督公会と長老教会との合同を指す)

又、1886年に作成された「明治学院創立案」の第一項に「現在の一致英和学校及び一致神学校は今後単一の組織と為す。その学府は完全なる基督教育を授け、特に青年をして基督教教師として訓育するを以て目的とす。」とある。そして1878年、東京一致神学校が第一回の卒業生を出して以来、1930年3月、明治学院神学部が最後の卒業生を出すまでの間に335名の卒業生があった。

この建学の事情と今日の献身者との間にどのような関連があるか、なんとかして戦前、戦中の学院を背景としつつ今日の状況を分析してみたい、もし許されるならば、「明治学院教育に於ける信仰の伝承」という見地から今回のテーマを取り上げて行きたいと思う。

現在の進捗状況は、①関係者のご協力により戦後の学生・生徒のうち献身した者約150名が判明し、その所属教派、現任地等を中心とした教師歴がほぼ整理され、②明治学院神学部卒業生のうち約40名の小伝が整理された程度である。

許されるならば、今回の研究と並行して将来の問題になるが、創立以来の献身者の信仰・教師歴を中心とした人物記を出来得る限り多人数分取り纏め、且つ、献身者の赴任先の教会を知ることが必要かと思っている。健康に留意し、基礎的資料の収集に務める所存である。

末筆になったが、研究所を始め学院関係者のご理解あるご指導を願いつつ筆を擱くこととする。

(せがわ かずお 協力研究員)